

# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内

洛友会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

075-753-5270

www.rakuyukai.org

## 通信事業に携わって

東京支部長 得井 慶昌（昭和52年生）



昨年の6月から、平成最後の洛友会・東京支部長を勤めさせていただきました得井です。

支部活動費の根幹を成す会費収入が伸び悩む（漸減と言っても良い？）中、会費を納入してくださる会員を増やすことが最重要課題との認識から、洛友会東京支部の存在そのものを再度認知していただくこと、魅力的な会員サービス（イベント）を提供すること、イベント開催の予定やその結果を出来る限りたくさんの方々に（出来る限り低コストで）お知らせ



サービスを手厚くする方向で準備が進んでおります。会費を納入していただける会員数の増加に直接する成果を収めるまでには至りませんでしたが、関係の方々のご協力により、無事、支部長の大役を終えることが出来ました。ありがとうございました。

さて、高校生の時、愛媛大学の学生から、「核分裂はいろいろな厄介なゴミをたくさん出すのが、太陽が輝いている仕組みである核融合は、ゴミを出すことなく、ほぼ無限にエネルギーを作ることが出来る。それを人工的に実現するのが人工太陽である。」という話しを耳にし、京都大学で人工太陽（ヘリオトロン）を研究しようと思っ

たところ、「同じ研究室のY氏が行くことに決まっているからダメ！」と言われたのだが、「研究所ではなく、事業部を希望している。」と申し上げたところ、「それなら良いだろう。」というので、（少々複雑な心境ではあったが）無事、電電公社に入社することが出来た。

それから、40年間、いろいろな業務に携わってきたが、新サービス・新ビジネスの開発に携わった期間が長く、主なサービスとして、ダイヤルQ2、PHS、柔軟な課金のための通話料課金システム、VDSL、データセンタ、ホスティング、VPN（Virtual Private Network）などを手がけてきた。開発（発明？）は、一般的に『千三つ』と言われているように、上手く行かなかったものは、アイデア倒れになったものは、枚挙に暇が無いが、見る目が無かったな。とか、先が読めていなかったな。とか、大いに反省することが幾つもある。本稿では、その幾つかを紹介して見ようと思う。

民営化後の1986年に、番号方式・番号計画を担当していた時、長距離電話をかけるのに、通話料の安い通信会社（当時、DDI、KDD、JT、TWTJだったと思う）を番号で指定する方法について、総務省（当時、郵政省）の『番

号問題研究会（番研と呼んでいた）で喧々諤々の議論をし、「何とかNTTに有利な結果に収めることが出来た。」と安心していたところ、池上研で同期だった故F氏がLCR（Least Cost Routing）なるものを開発し、それが、あっという間に普及してしまい、熾烈な価格競争に突入せざるを得なくなってしまう。そんな手があるとは、想像もしていなかったし、それでも『短い番号、覚え易い番号』の重要性（有用性）が毀損されることは無いだろうと確信していた。ところが、ある時、斜め上のK部長から、「いずれ、番号の役割はなくなって、たとえば、名前で通信できる時代が来る。」と番号方式の検討に没頭している私にアドバイスがあった。その時は、「まさか！そんなことが出来るはずがない！」と思ったものだが、今や、番号など覚えていなくても少しも困らない状況が実現されている。

2005年頃、VPNの開発にかかわっていた私は、部下の紹介でインターネットの大御所のM先生と意見交換させていただく機会があった。VPNの特徴と必要性を申し上げたところ、「NTTはだからダメなんだ。インターネットは、黄河（ガンジス川とおっしゃった？）のような大河であり、

誰でもタダで使え、どんなものでも運ぶことができる、万民のためのインフラでなければならぬのだ。きれいな水が必要だからと、膨大なコストをかけて、川の上流から延々と細い管を引いてきて、きれいな水を高い値段で提供する時代はもうすぐ終わる。」と言われて、その時は、「汚れた水を浄化するコストの方が、ずっと高いに違いない。」と反論した覚えがある。しかしながら、今日、急速に、ギランティ型サービスからBE (Best Effort) 型サービスに、そして、ザ インターネットにトラヒック(市場?)が移っていることをひしひしと感じる。一方で、浄化方式(セキュリティ)が想像をはるかに超えるビッグビジネスに成長したのは、皆さんご存知のとおりである。

2012年秋に米国に出張する機会があり、その際、シリコンバレーに立ち寄り、最近の技術・ビジネス動向を聞かせてもらった。私としては、Webやクラウドの最新情報が聞かせてもらえると期待していたところ、「今、ここでフィーバーしているのは、自家用車の相乗りや空き部屋を他人に提供することを仲介するサービスである。」と紹介された。「犯罪が多発し、危険が一杯の米国で、どこ

空間に一緒にいる。などは、考えられない。」と思つたし、帰国して、そのように報告した。ご想像のとおり、現在のUberであり、Air B & Bである。何となく、マッチングビジネスやプラットフォームビジネスが面白そうだとは感じていたのだが、事後に利用者の評価を収集し、その評価の蓄積がサービス提供者は当然のことながら、次のサービス利用者まで提供されることにより、安全性を確保している仕掛けがすごいなど、感心した。個人がドンドン自分の意見や経験を発信し、それを誰もが受け取り、蓄積されていく、SNS時代というのは、こういうことなんだと最近になって、痛感しているところである。

少々、恥ずかしいけれど、目の事、足元ばかりを見ていると、大きな時代の流れを見誤つてしまう事例として幾つかご紹介してみた。何かの参考になれば幸いである。

最後に、会員の皆様にお願ひがあります。会員の方々へのイベントのご案内等をメールで行いたい(郵送ですと、相応の手間と費用がかかるので)のですが、異動等によりメールアドレスが変更になった場合、ご自身で洛友会のホームページ経由で現行化していただくかないと、メールが届かなく

なつてしまいます。東京支部でも毎年10名以上の会員の方々へのメールが届かなくなつてしまつており、現行化に苦慮しております。できれば、終身利用予定のメールアドレスの登録をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

洛友会ホームページ  
<http://www.rakuyukai.org/>

### 教室だより

#### 機械研究会「NHK学生ロボコン」初優勝

この度、我々機械研究会はNHK学生ロボコンで初優勝を納め、日本代表としてABUROボコンという世界大会に出場することになりました。世界大会はモンゴルで8月25日に開催されます。NHK学生ロボコンは国内最大級のロボコンであり、京都大学が本大会に出場するのは実に15年ぶりです。本戦の様子はYouTubeで公開されており、大会の様子は7月15日に放送予定です。私は現在電気電子工学科の3年生で、電気電子工学科の人間では、4回の北村健浩、3回の馬場達也、岡本尚之、2回の由利倫太郎が今回の挑戦にかかりました。私と北村と由利は特

色入試で入ったということで少々奇異な顔ぶれと思います。



後列右から2人目が松岡、その左が馬場、前列右から2人目が由利、左端が岡本、左から2人目が北村

ことの発端は北村と、リーダーの物理工学科3回の森田瞭平が昨年8月のABUROボコンの生中継で感銘を受けたことでした。偶然我々の代は人数が多く、皆乗り気になったことから、総勢10名でNHK学生ロボコンに挑戦することとなりました。

15年ぶりということもあり、我々はほぼゼロからのスタートでした。しかし、メンバーの努力(練習場所がとれず、深夜の屋上で練習をしていた姿は忘れないでしょう)と当会OBの皆様方の支援も

ありまして、何とかNHK学生ロボコンの会場に出せるだけのロボットを作り上げることができました。

正直な感想を言わせていただくと、予選を抜けることが我々の心の中での現実的な目標であったため、優勝という結果は未だに信じがたいところがあります。ロボコンというものはトラブルが起きてこそ面白いという側面があります。我々が対決した相手はことごとくトラブルで全力が出せず、一方で我々はあまりトラブルに見舞われませんでした。結局、終始その調子で一度も負けることがなかったので優勝したという感じでした。信頼性は他のロボコンでの経験から重視したことのひとつであったので、そこが報われたのだと思います。

どんな形にせよ優勝し、世界大会に出場することになった以上は、他大学に恥じないロボットを世界大会に出すべく、現在鋭意ロボットを改修中です。しかし、現実的なことを言うと世界大会に行くには200万近い費用が必要で、当会OBの皆様だけにこれ以上頼るのも難しい状況です。もし我々機械研究会の挑戦にご賛同いただける方が居ましたら、近いうちに設立される当会の京大基金にご寄付いただけますと幸いです。

また、A B Uロボコンは生中継もありますので、もしお時間がありませんでしたら応援していただけますと大変励みになります。

松岡 航太郎 (B3) 記  
※京大機械研究会基金は、2019年6月21日に設立されました。

<http://www.kinkkyoto-u.ac.jp/contribution/robot/>

会員寄稿

洛友会の歌(四十周年)と関西支部

西台 惇

(昭32年卒)



松田先生の作詞、作曲になる洛友会の歌は洛友会会報の昭和54年7月号に「随想」の寄稿に添えて自筆の歌詞、楽譜で掲載されました。40年前の今月です。

その年の6月に本部総会が東京で開かれ、洛友会会長の先生は楽譜をご持参になったと思います。上記記事に「倉野昌夫氏(29年卒)

の美声により披露発表された」と記されています。

その年の11月、関西支部の家族見学会は播州の姫路城見学コースでした。昼食会場の塩田温泉で、ご参加下さった松田会長先生と一緒に幹事役であった私はこの洛友会の歌を歌わせていただきました。

この年から数えて今年は丁度四十周年に当たります。

翌年の5月に関西支部総会が開かれたとき、懇親会場で洛友会の歌が流れるなかを全員が入場しました。音源はカセットテープの洛友会の歌でした。

此のカセットテープは、神戸俊夫さん(講習所昭14年卒)が声楽家の令嬢に作成を依頼されたものと聞いています。テープのコピーは洛友会幹事さんから各支部へも配布されました。

懇親会の締めくくりは、当然洛友会の歌の全員合唱でした。

松田先生は大変お喜びになり、また副会長であった大谷先生から、この洛友会の歌を歌い続けるようにとのご下命がありました。

このような経緯を経て関西支部は洛友会の歌との強い絆ができました。

松田先生はハ調で書いた楽譜を寄稿されました。神戸さんは自分の声の音域(メゾソプラノ)に

合わせてハ調で歌っています。しかし中高年の男性がこの音域で歌うのは音が高くて苦しいです。翌年の関西支部の世話役さんは、一音半下げた伴奏音源と歌詞のチラシを準備して下さって、楽に歌える洛友会の歌で総会懇親会を締めくくることができました。このようにして洛友会の歌が関西支部に定着しました。

それ以降関西支部の幹事さんは、総会の設営業務の一端として伴奏音源と歌詞のチラシの準備、加えて歌の予習をすることが代々引き継がれて、今日に至っていると思われます。

洛友会の歌を歌うたびに松田先生のお姿が目につかびます。講義の一段落で眼鏡を外されると、学生は身を乗り出します。「雑談」が始まるからです。先生の博識は限りなく、様々なテーマでの論評を興味津々伺いました。

昭和31年の御退官ですので聴講した方は少なくなりました。歌詞にみられるように洛友会を愛し、会員をいとおしまれました。会長として永年にわたって各地の支部総会へもご出席下さいましたのでお目にかかれた方は多いと思います。

上記随想では「時あって、この章句を口吟して頂ければ、望外の仕合せに思います」と結んでおら

れます。全国各支部の皆さん、「洛友会の歌」を歌い継ぎましょう。

編集部注…洛友会の歌の楽譜が洛友会ホームページの資料庫にあります。ご利用下さい。

北海道での15年を振り返って

佐野 大輝  
(平16年卒・北海道支部)

私が大学卒業とともに北海道に来て、早くも15年になります。

それまでは関西で過ごしてきたため、就職で来たときは、親戚はもちろん、知人友人もない状況でしたが、会社の同期とは10月の内定式で会っていたので、不思議と不安はなかったように記憶しています。

今回は、会報の一般寄稿の機会を頂きましたので、この15年を振り返りながら、北海道の魅力を少しでもお伝えしたいと思います。

まず最初に、苫小牧(空港がある千歳の南に位置する市)というところに赴任が決まり、三年間過ごしました。

苫小牧という土地は、霧が多いといいますが雨が多いいいいますか、すっきりしない天気が多いも

の、雪が少ない地域であるため、関西育ちで雪かきに慣れていなかった私にとっては暮らしやすいところでした。食べ物にはホッキガキが有名ですが、海産物はもちろん、近隣の白老牛や平取和牛など少し足を延ばすと、様々な美味しいものに出会えるところなんです。また、個人的にはカレーラーメン(大王というお店が有名)がおススメです。

プライベートでは、最初のうちは、会社の同期しか友人がいない状況でしたが、大学から始めたテニスを通じて、徐々に会社以外の知り合いも増え、いつしか週末に旅行にいったりBBQしたりテニスの大会に出たりする仲間が恵まれます。私生活は充実していた記憶があります。趣味を持っていないと、知らない土地でも自分の世界が広がるということを実感しました。

そんな苫小牧で三年間過ごした後、転勤で旭川に赴任しました。旭川という土地は、北海道のいたい真ん中に位置しており、海沿いの苫小牧とは違い、内陸のため、夏は暑く冬は寒い、そして雪が非常に多いところなんです。ただ、場所的にいろんなところに行きやすくて、美瑛や富良野、北見や網走、足をのびして稚内や知床と、様々なところに行きました。また、転勤してしばらくは三交

替勤務で夜勤もあったため、夜勤手当でもあり毎日のように居酒屋めぐりをして、あつという間に体重が…。運動と食事のバランスは大事ですね。

旭川のおすすめポイントは、無料で使用できるテニスコートが数多くあることです。しかもかなり状態が良いのです。食のおすすめは、醤油ラーメン(個人的には蜂屋というお店が好きでした)です。そんな旭川で二年間過ごした後、またまた転勤で札幌に赴任します。

札幌では現在まで、およそ10年間勤務していますが、基本的には北海道では唯一の都市部なので、便利な一方、少し郊外に行くくと北海道らしい風景が広がります。

札幌の中心部といえは、札幌駅から大通公園を経てすすきのが該当すると思いますが、近年、札幌駅からすすきのまで地下通路がつながりました。そして、地下通路をさらに拡大する計画があるようです。メリットとしては雨や雪の日でもまったく苦もなく移動できるといふことでしょうか。特に、冬は道路がアイスバーン状態になり、足を滑らせて怪我をする危険性が高いので、地下通路は非常に有効だと思います(出張等で冬季にこられる際は十分気を付けてください)。一方、デメリットとし

ては、外に出ないので、季節を感じ難いということでしょうか。私は、札幌駅から会社まですべて地下を歩いて通勤しているのですが、雪祭りなどのイベントが開催されていることに気付かないといったことが多々あります。

札幌での食のおすすめはスープカレーです。スープカレーはルーカレーよりかなり辛く感じることに留意いただくと美味しくいただけます。最初は見栄を張って辛めを注文していたためつらいだけだったのですが、あるとき辛さを最低まで抑えて注文し非常に美味しかったため、大好物になりました。個人的には奥芝商店というお店がおすすめです。

ここまで私が15年過ごした地域である苫小牧・旭川・札幌(住居は恵庭市ですが)の3市について紹介させていただきましたが、こんな内容を洛友会会報に掲載いただくのは場違いではないかと、今更ながら感じております。しかし、締め切りの関係もあり、お見苦しい文章とは思いますが、何卒ご容赦願います。

結びに、現在、私は北海道支部の幹事を務めさせていただいております。北海道支部は、会員数は少ないながらも、毎年の支部総会には多数ご参加いただいております。

す。これまでご参加いただいている方も、懇親会に出席するくらい気軽にご参加いただければ幸いです。また、北海道に転入される方がいらっしやいましたら、是非連絡をいただければ幸いです(ご連絡を頂かなくても、名簿で公開いただいている方には支部総会にご案内ができます)。どうぞよろしくお願いいたします。



## DIYデビュー!

達田 政志

(平12年卒・中国支部)

最近ハマっているもの、それはDIY(Do It Yourself)です。DIYという言葉は、既に多くの人に認知されているようですが、簡単に言うと、その道のプロではない素人が、自分の手で棚やテーブル、インテリアやファッション用品を作ることを言います。DIYは、専門業者に頼らない分、コストを抑えることができること、自分の好みの独自仕様のものを製作できるといふこと、そして何よりも空間をイメージして構想を練ることの楽しさ、作る喜び、そして完成したときの充実感を味わえるということが大きな魅力です。日曜大工など自らの手で何かを作るという作業は、以前は主に男性の仕事でしたが、このDIYという言葉が普及してからは、男性のみならず、女性の間で爆発的な人気となつていふようになります。

DIYという言葉の由来は、第二次世界大戦にまで遡るようです。ナチス・ドイツ軍から激しい攻撃を受けたイギリスのロンドンで、「Do It Yourself」を合言葉に、破壊された街を自分たちの力で再建復興させようという国民運動がはじまりとされています。この運

動はイギリスのみならず、ヨーロッパ全土、そしてアメリカへと拡がり、アメリカにおいて「復興」から「レジャーや余暇の一つとして楽しむ」という概念へと変化し、更には自分で趣味として楽しむという現在の一般的なDIYへと変化しようです。

私がDIYに興味を持ち始めたのは2年前程からのことです。母は、昔から自宅に近所の友人を招いては茶話会を催すことが好きだったので、膝の人工関節の手術を受けたことで、正座をしたり床に直接座ったりすることができなくなるなど、普段の何気ない行動が以前のようにできなくなりました。それ以降、茶話会を開くことも少なくなり、友人と徐々に疎遠になっていくのを何となく感じていました。そんなある時でした。父が突然「わしが、以前のように皆で集まるように部屋を改装してやる、わしに任せろ。」と言い始めたのでした。今思えば、言葉には出さないが内心では以前のように友人と集まって楽しく過ごしたいと思っていた母と、何もできない自分に対し不甲斐なさを感じていた私のことを見兼ねてのことだったのだと思います。当初、私は部屋を改装するなら、その道のプロに任せるべきだと反対したのですが、いろいろな雑誌を買っ

てきては、どのような空間がいいか、どのような装飾がいいか、母の希望をこまめに聞きながらそれに真剣に応えようとする父、それに対し楽しそうに答えている母の姿を見て、伸るか反るか父に任せてみようと思いました。幸運にも、父にはDIYのセンスがあったようで、人工関節の母が使いやすいように、応接間の床を掘りごたつ式に改装したり、アンティーク調のテーブルや食器棚を作ったりと、見る見るうちに母好みの部屋に変えてみせ、有言実行したのでした。実家に帰るたびに、両親が笑顔で楽しそうにしている姿を見て、たちまちのうちに私もDIYにはまってしまいました。

そんな父が昨年12月に他界しました。やり残したことがいろいろあったと思いますが、母が楽しんで暮らすためには何でもするといふ父の遺志を少しでも引き継げればと思ひ、週末は毎週のように実家に帰り、父に代わって母の理想や希望を聞き、イメージを膨らませながら、実家のDIYに動んでいました。私が製作したもので言えば、小さめのカウンターテーブルやウォールラックシェルフ、有孔ボードを使用したお洒落な観葉植物のインテリアなどがあります。

DIYを始めた頃は、電動ジグ

ソーや電動ドリルドライバーなど比較的操作が簡単な工具は何となく使えはしましたが、一直線に切断できない、釘やネジを垂直に打ち込めない、棚の脚の長さが微妙に異なるなど惨憺たる状況でした。ただ、「習うより慣れる」で、

休日たびに試行錯誤しながら家具や雑貨を製作していくうちに、DIYに対する知識・経験が増えるとともに、工具の扱い方にも慣れ、構想・設計・部品・材料の購入・組み立てまで、当初の半分程度の時間でできるようになりました(初めた当初、相当な時間がかかっていただけですが)。幾分か余裕も出てきたことで、今では母から「〇〇を作ってほしい」、「〇〇のような感じにしてほしい」と言われてもいないのに、自ら勝手に提案する方が多くなっている自分に驚かされます。また、最近では10歳の甥っ子も一緒に(姪っ子はまだ4歳なので、邪魔ばかりしていますが)楽しみながら作業しています。

父が途中でやりかけて止まっていた実家のDIYを私が引き継いだわけですが、私の新たな楽しみの一つになりました。世間一般的にはまだまだ初心者レベルであり、イメージどおりのものができあがらないことがほとんどですが、それも一つの『味』と割り切

ることにしています。

最後になりますが、「Do It Yourself」という言葉は、知恵と創造力を存分に働かせて、自ら手を加える・工夫することで、より快適に、より便利に、より楽しく暮らしていけるということだと理解しています。私生活や仕事のあらゆる場面で、この精神を胸に取り組んでいきたいと思っています。

## クワガタムシの採集と飼育

西 順也  
(平6年卒・関西支部)

今年もまた夏が近くなってきました。ここの数年の間、私にとって夏といえばカブトムシ・クワガタムシである。

今は大学生になった息子が幼稚園児の頃、カードを使ったアーケードゲームやアニメで火のついた昆虫ブームがあった。昆虫ショップやホームセンターでは様々な種類のカブトムシ・クワガタムシが売られ、凶鑑でしか見たことのなかったヘラクレスオオカブトムシやスマトラオオヒラタクワガタなどの外国産の昆虫も入手可能になっていた。さらに、夏祭りの露店でもクジ引きの賞品としてこれらの希少な昆虫が並んでいて驚いた記憶がある。

このブームでカブトムシ・クワ

ガタムシに興味を持った息子に付き合う形で始めたものの、自分の方がすっかり夢中になってしまった。というわけで、今回はいくつかある趣味のうちクワガタムシの採集・飼育について書くことにする。

### ① 採集

我が家はやや郊外の住宅地に位置し、幸いなことに車で五分程度走ればもう山である。さらに、移り住む前には全く知らなかったのだが、オオクワガタには日本三大産地と呼ばれる地域があり、そのうちのひとつが我が家から近い大阪府能勢町である。残りの二つは山梨県韮崎市と佐賀県筑後川流域で、いずれもマニアの間ではよく知られているらしい。

能勢近辺の山には、台場クヌギと呼ばれるシイタケ栽培の柵木を作るための木があちこちにあり、樹液の甘い匂いがする頃になると、この餌場となる木に様々な虫が寄ってくる。私はこれまでにカ



ブトムシ、ヒラタクワガタ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタなどを採集したことはあるが、実はオオクワガタを採ったことは一度も無い。三大産地の近くに住んでいながら山で見かけたことすら無いのはとても悔しいが、オオクワガタは警戒心が強く、足音や懐中電灯の光など人の気配を感じるとすぐに木の洞等に隠れてしまうので、採集の難易度は非常に高いのである。

カブトムシ・クワガタムシは夜行性なので、採集は夜に行くことが多い。山では可愛いキツネやシカなどに出くわすこともあり、小川沿いでは柔らかな光を点滅させながら優雅に舞うホタルを見ることもあり心が癒される。一方で、夜の山に一人入るときは少し怖さもある。急な斜面や崖もあるし、スズメバチやムカデ、蛇などの危険生物もいる。もし何かアクシデントが起こっても携帯電話の電波が入らない所もあるので、少々大袈裟かもしれないが命懸けである。

採集ではマナーの悪い輩もいて悲しくなることがある。木の洞に隠れたクワガタムシを捕まえるために、木を削ったり、爆竹や煙幕を使ったりして木を傷つけるのである。姿は見えているのに採れない場合に何とかして採りたい気持

ちは分からなくもないが、隠れ場所である木を壊してしまえば、後はそこに棲めなくなることを考えてもらいたい。また、幼虫採集と称して、朽木ではなく、幼虫がいるはずのない生木をチェーンソーや斧で切り倒す信じ難い不届き者もいる。

② 飼育

カブトムシ・クワガタムシは幼虫から蛹を経て成虫になる完全変態の昆虫である。よく見れば頭と体の大きさや比率など種別毎の特徴はあるが、いずれの幼虫も似たような姿をしている。しかし、蛹になる段階で全く異なる形に変身を遂げる。その間には一旦体がドロドロの液状になると聞いたことがあるが、まさに生命の神秘である。真つ黒の成虫はもちろんのこと、蛹化直後の白色半透明の姿もとても美しいと思う。

成虫の雌雄ペアを腐葉土や朽木等を入れたケースで飼育し、無事産卵、孵化に至れば、幼虫を菌糸瓶に移して完全変態の過程を観察することができる。菌糸瓶は幼虫の餌となるオガ屑とオオヒラタケ等のキノコ類の菌糸を混ぜて瓶に詰められたものである。もちろん腐葉土や朽木の中でも成虫まで成長するが、菌糸瓶での飼育は管理が容易で、完全変態の観察にも適している。

なお、成虫の大きさは幼虫の大きさと関係があり、幼虫期に如何に大きく育てるかが鍵となる。成虫の大きさを追求するマニアは、大型血統の成虫を掛け合わせたリ、キノコの種類や添加物等の配合を工夫した独自レシピの菌糸瓶を作ったりするらしい。私は大きすぎても神秘的な完全変態の様子を観察することに関心があるため、菌糸の種類や配合に特別な拘りはなく、昆虫ショップで販売されている一般的な菌床ブロックを手作業で瓶詰めしている。

当初は採集したカブトムシ・クワガタムシを家に持ち帰って飼育していたが、数が増え過ぎると世話が大変なので、最近は採ったその場でリリースすることになっている。さらに、飼育する種類はオオクワガタだけに絞っている。先述のように、自身でオオクワガタを採集したことは無いため、昆虫ショップで幼虫の雌雄ペアで入手し、累代飼育をしている。幸い家族(妻)の理解もあり、ガレージだけでなく、家の中にも飼育ケースと菌糸瓶を所狭しと並べている。

世話に手間がかかるように思われるかもしれないが、実はそれ程大変でもない。夏は数日おきに成虫の餌のゼリーを交換し、乾燥と高温に気を付けて直射日光の当た



らない風通しの良いところに置いておくだけで、あとは糞尿等で土が劣化した場合に入れ替える程度である。冬は冬眠して動かない成虫の餌は交換する必要もなく、幼虫は菌糸瓶に入れたまままでよいのでほぼ手がかからない。ちなみに、カブトムシやノコギリクワガタ、ミヤマクワガタは夏の間にその生涯を終えるが、オオクワガタやヒラタクワガタ、コクワガタ等は越冬する。

③ おわりに

私自身は小学生の頃に父の田舎で街灯に寄ってくるカブトムシ、クワガタムシを採集し、飼育した経験はあったが、産卵の段階止まりで、その先まで進んだことはなかった。その後、長いブランクを経て息子が興味を持ったことをきっかけに、昆虫飼育のさらに深

いところまで観察することができたことを嬉しく思う。

最近では、本来自然の中にいるはずのオオクワガタを人間の勝手に狭いケースに生涯閉じ込めておくのが気の毒に思えてきた。しかし、生態系に影響を与える恐れがあるため放すわけにもいかないもので、心の中で申し訳ないと思いつつながら育てている。

本稿が掲載される頃には梅雨も明けて本格的なシーズンに入っていることと思う。そろそろこの趣味から引退しようと思いつつも、また山に出かけているかもしれない。

同窓会だより

昭和四十二年卒業クラス会

昭和四十二年卒業、昭和四十四年修士修了のクラス会を平成三十一年三月二十五日に名古屋ガーデンパレスホテルで開催しました。参加者は二十八名で、遠く台湾から駆け付けた友もあり、卒業以来会う友なども交わり、会の始まる前から立話に花が咲きました。会の開催に先立ち、十六名の亡き友に黙祷を捧げました。

会に入り乾杯の後、参加者全員が近況を持ち時間二分間で紹介しました。それぞれ話題豊富で時間



が不足気味でした。歓談も弾み予定した時間も瞬く間に過ぎ、次会の幹事と倉敷での開催決めました。最後に、「三高寮歌」と「琵琶湖周航」を声高らかに歌い閉会となりました。その後ホテルの喫茶室では二次会があり再度盛り上がりました。

翌日には貸切りバスで、熱田神宮、トヨタ博物館、名物の「ひつまぶし」の昼食後、名古屋城、徳川美術館を観光し、名古屋駅で散開しました。

今回は先秋予定した会が台風のため延期されたもので、幹事の牧之内さんと塚田さんには二重のお手数をかけました。

來山 征士 記

卒後55周年同窓会(昭39年卒)

我々昭和39年(1964年)に卒業した者は、平成31年に卒後55周年を迎えるにあたり、4月17日(水)12時から 京都・高台寺傍の料亭「菊乃井」で同窓会を開催した。参加者41名(内関東2/3)実に66%の高出席率である。ドタキャンを心配したが全員定刻に参集。幹事一同これは嬉しかった。今回は、夜の会合はしんどいから、昼間、その代り贅沢にやろうということにした。京都は最近混んでいるから、色々調べて「菊乃井」を去年4月に選定。この亭主村田吉弘氏は昨秋、長尾元総長と同時期に「和食文化への貢献」により文化功労者に選ばれている。当初総会だけの積りだったがアンケートを取ると、従来同様付帯行



事もやってほしいとのこと。散策組は当初大文字登山を考えた。学生時分は合宿のホンの一齣だったが、3人で登ってみてこれは無理だと諦め、最近好評の疏水船乗船に的を絞った。乗船者は抽選で決めると言われていたが、窓口折衝で団体貸切可能と判明。一艘定員12名なのに希望者17名、熱意が通じたのか 何とか団体貸切15艘を早期に確保できた。午前の清風荘見学も「こんなのあるよと2、3の者から提案」、衛生工学の先輩から大学の窓口を紹介してもらい実現。GOLF組も当初予定のゴルフ場が不可となったが幹事の努力で城陽CCを確保できた。さて当日、写真撮影の後、黙禱、幹事長の開会挨拶。平均余命、後10年余「も」ある。学生時分の4年間で如何に長かったかを思い起こし、与えられた時間を有効に使うと述べた。児山君の会計報告と不時のために蓄えた基金の解散を決議、足立君の会員状況報告の後、田中君の音頭で乾杯、会食、懇談。本格的和食を一品ずつ噛みしめた。写真に纏めた者も何人か。中程でスピーチ。ノーベル賞受賞の本庶さんと小学校からずっと一緒の柏村君の話、長尾元総長の情報学に因んで、著述を出版した者の話を聞いた。植村君の「入門データベース」は学会から「教育優秀

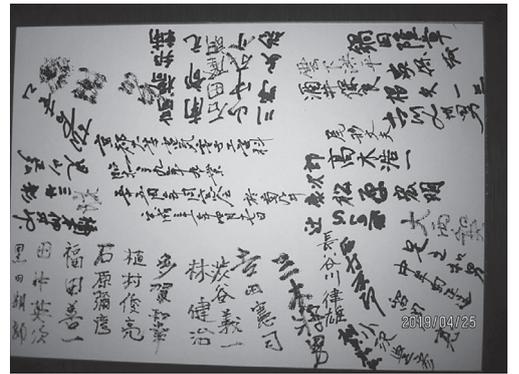


賞」を受けるとか、著述の他新島襄研究論文多数で同志社社長から感謝状を貰った三好君、「邪馬台国と大和王権」を書いた大西君、私もつい買ってしまった長谷川君の「力学入門」など畑違いの話が興味深かった。中牟田君の中締め挨拶の後、京大オケにいた吉田君のリコーダー演奏に合わせ、学歌、琵琶湖周航の歌、逍遙の歌斉唱。一番遠方から来た西村君の「平成最後の」一本締めで散会。ゴルフ組を中心同じ宿に泊まる者達は別に夕食会を開催したとか。翌日散策組18名は今京大が管理する清風荘(元西園寺公望別邸)を見学、小川治兵衛作の庭、茶室、公望が勅使を迎え、元老として総理を考えた席に座りゆったりと庭を眺めた。この掛け軸は公望の作詞・揮毫と説明されたが、翌日

「博文」作詞と出典を示し訂正した者がいたのは吃驚。松本前総長が発注したという立派なテーブルに「木の婦」(電話番号1番に気付いた者あり)から取り寄せた弁当を、VIP並みに庭を眺めながら食べた。窓に嵌っている歪ガラスにつき、後程その歴史を語る者がおれば、今でも歪ガラスの製作者がいて役に立ったことを語る者、西園寺公望について論考する者もあり、皆さん反芻しますね。なお午後の行事に関連し、ノートルダムドバリの火災にも鑑み、この疏水開発時「サイフォンの原理を利用し、蹴上から見下ろせる本願寺の大屋根まで散水できる防災装置を作っていた」という先人の知恵も紹介した。単に、見て・乗るだけでなくそれを題材に考える者がいるのは流石だ。午後は17名が疏水船。定員の関係から5名は蹴上から上り三井寺へ。12名は三井寺から蹴上へ川下り。菜の花が咲き、所々に桜が残り、台風の痕も、また昔舟をつないだ石の舳もあちこちに見られ、トンネルでは5℃低下で肌寒さに見え、工法の説明に納得したり楽しいクルーズだった。一方ゴルフ組14名は快晴の下、文句のつけようのない環境で楽しんだ。タイガー・ウッズの復活もあり、皆力み過ぎたか、結果は前回よりグロスで5打低下、グループ内考案のハンディキャップシステムではネットでは同じだという。年齢もありこの程度は妥当と思われるが、今回も難コースだったが楽しかったと皆言う。このゴルフ会1999年に始めて今回46回目。20名から減ってはいるが、よく4組を維持している。次回も半年後の予定を決めたという。これら正式行事の他に開会前に南禅寺近傍の別荘見学や、閉会後に修学院離宮を拝観する者、疏水船乗る前に三井寺拝観する者、いやあ皆さんお元気でした。やはり、いろんな話刺激になりましたね!次回は関東で25年後、5年後京都で卒後55周年同窓会をやりたいという事で別れた。幹事としては手を抜く筈が、今回は一番しんどかった!でも楽しめました!



第46回39京電会ゴルフ 2019(431)-04-17 於城陽CC 卒後55周年同窓会翌日



留岡 寛 記

### 洛友32会クラス会(62周年)

#### 一、クラス会の最高記録は？

昭十会(昭10年卒)が卒業65周年記念会を13名(内同伴4名)で開催された。(洛友会会報平成12年8月号)これが私の調べた限りの最高記録です。

昭和32年卒業の私たちは、二年前に卒業60周年の記念会を盛大に開催しました。その時これを通して点と捉え二年毎のホップ、ステップ、ジャンプで66周年(記録更新)とする計画を立てました。今回はその第一歩のホップです。

#### 二、クラス会 第一日

平成31年4月23日の昼、金閣寺の裏山、左大文字山の麓近くの料



洛友32会クラス会 於しよざん千壽閣 2019. 4. 23

亭千壽閣にて21名(内同伴夫人5名)が二年振りの出会いを楽しみました。

お互いに話し出すとたちまちタイムスリップです。時の経つのを忘れず。

締めくくりとして恒例の「洛友会の歌」を全員で力強く歌いました。

#### 第二部金閣寺拝観

宴会会場から至近、帰路に立ち寄りました。余りにも人気のスポットではありますが、意外に誰も訪れた機会は少なく、夕日に輝く金堂の美しさには感動を覚えません。後ろ姿、上からの眺めなどを堪能しました。

### 三、クラス会 第二日

#### 1. 下賀茂神社参拝

世界遺産の文化財ならではの神々しい雰囲気になります。襟を正して本殿に参拝しました。自分の干支の守護神を探してのお参りも楽しみの一つです。

糺の森は新緑に萌え、泉川に沿っての散策は快適でした。

#### 2. 石村亭見学

糺の森の東側に接して、泉川町に谷崎潤一郎の旧邸があります。63年前に下鴨の寒さに耐えられず、愛する京都から熱海へ移られました。

日新電機が譲り受け、谷崎の人となり、生活、作品を回顧する拠点となるよう当時のまま建物、庭園を維持してきています。

案内者のお話を聞くほどに、作品を通じてしか知り得なかった文豪の生々しい人間に触れているような錯覚がありました。

本年2月に逝去されたドナルド・キーンさんは昭和28年に京大大学院に入学後、ここで憧れの谷崎さんに面談し、浴衣を贈られたとのこと。50年を経て再訪した時石村亭が変わらぬ姿で迎えてくれたとの感動を記されています。我々と同学生生と知りました。

洛友32会は次のステップへ向かいます。

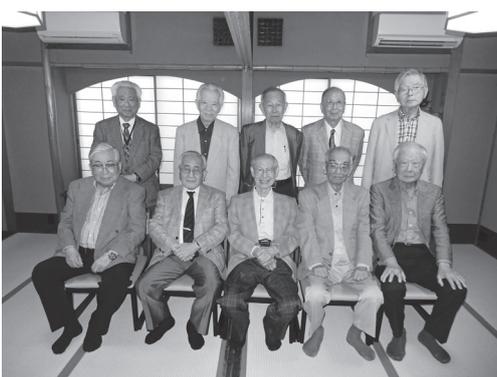
西台 悼 記

### 昭和29年卒(二九稀会)有志卒業65周年兼米寿記念同窓会

昭和29年(1954年)学部卒業生の同窓会である二九稀会は2年前の平成29年に卒業年度の29にちなんで同窓会を開催した。当日散会の際に、全員が数えて米を満場一致で決定した。

そこで昨年後半から準備を進めてきたが、卒業当時は70名の会員も存命者は30名あまり、しかし歳には勝てず、最終的に出席予定者は10名にとどまった。したがって表題のように有志同窓会とした次第である。

会は5月21日、新緑の京都祇園花見小路、名刹建仁寺に近い京会席料亭「奎兵衛」で正午過ぎに始まった。花見小路といえば今や海



外観光客があふれるところ、レンタルの和装で記念撮影をする人も多く、喧騒の巷である。しかし2階の座敷に上がれば静かそのもので、2年ぶりの再会にまず互いの健康を祝し合った。

先付八寸の台には季節にふさわしく、主人手書きの毛筆ひらがなで『伊勢物語』にある在原業平の「かきつばた」の歌の写しが添えられ、さすが京都のみやびが感じられた。

京会席を味わい、欠席した会員の様子を気遣いながら、それぞれが昔のこと、このところ考えていることなどを語りあった。この会に出席すると若い日が蘇り、元気が得られるので次回もぜひとの声もあった。

皆さん、健啖ではあったが、アルコールについては2年前よりもさらに減つたように思われる。健康に留意していることもあれば、もうそんなに飲めないということもある。

終宴の際に、2年後には全員数えの90歳になり、卒寿記念の会を開くことにしたが、出席できるかどうか、さらには開催の可否すらも、この歳ではもはや運まかせである。最後に「琵琶湖周航の歌」を歌い、再会を約しつつ別れた。

片井 正男 記

支部だより

中国支部企業見学会の開催について

平成31年3月6日(水)に17名の支部会員に参加頂き、広島市環境局中工場を訪問しました。

広島市環境局中工場では、広島市の可燃ごみ、その他プラスチックの約50%を処理しており、当日は、広島市のごみ処理に関する状況や、中工場の設備概要についてご説明いただいた後、工場施設を見学させて頂きました。

中工場で受け入れられたごみは、10,500mのごみピットに集められた後、ごみクレーンで焼却炉へ投入され、850℃、950℃で焼却されるとのことでした。その際の排熱は、発電や温



水にも利用されていきました。さらに、ろ過式集じん器、ガス吸収塔、触媒脱硝装置などの排ガス処理施設が設置されており、都市近郊のごみ処理施設として環境対策には特に力を入れておられる様子で、見学中もごみ特有の臭いはほとんど感じられませんでした。

一方で、ごみの分別が不完全で不燃物が含まれているとトラブルが起こってしまうことがあるという話や、広島市全体で1日3,300万円、年間120億円ものごみ処理費用が掛かっているという話は、市民として耳の痛くなるような話でもありました。

見学会後は、ホテルグランビア広島のレストランL&Rで会食を行い、会員間の親睦を深めることができました。

今後ともより多くの会員の皆様に参加して頂ける企画を実行し、洛友会中国支部の活動を盛り上げていきたいと思っておりますので、引き続き宜しくお願い致します。

望月 和之(平14年卒) 記

関西支部総会報告

令和元年5月11日(土) 15時30分より、ホテルグランヴィア京都(5階・古今の間)において、関西支部総会が57名の出席を得て開催されました。

総会に先立ち、恒例の講演会を開催しました。講演会では、株式会社タマナレッジ代表取締役社長 藤江恂治様(昭和37年卒・元(財)鉄道総合技術研究所技師長)より、「浮上式鉄道の開発の経緯と今後の展望」と題して、旧日本国有鉄道(国鉄)時代からの超電導磁気浮上式鉄道(リニアモーターカー)開発の経過と今後の技術の展望についてご講演いただきました。

研究開発開始より50年以上に及ぶ努力と執念が実り、幾多の失敗や課題を克服して、いよいよ2027年(令和9年)の東京(品川)―名古屋間リニア開業が実現する見通しとなっていることに、会場からは感嘆の声が上がり、参加者一同、大変興味深い講演会となりました。

支部総会は、仲野総務幹事(平成4年卒)の司会のもと、大西支部長(昭和53年卒)のご挨拶で始まり、平成30年度行事報告ならびに決算報告があり、また令和元年度行事計画および予算編成ならびに令和元年度関西支部役員改選について審議され、承認・決議されました。

続いて令和元年度の新役員に選任された、

支部長 三浦良隆(昭和55年卒) 副支部長 則竹博安(昭和56年卒) 総務幹事 花田敏城(昭和60年卒)

会計幹事 西 順也(平成6年卒)の各氏よりご挨拶がありました。支部総会に続いて、恒例の本部報告をお願いしました。

洛友会幹事長の荒木先生(昭和41年卒)より洛友会本部の活動について、洛友会事務局長の和田先生(昭和56年卒)より電気系教室の現況について、ご説明いただきました。

総会終了後、出席者一同で集合写真を撮影した後、引き続き懇親会が開催されました。洛友会会長の長尾先生(昭和34年卒)のご挨拶の後、最高齢のご出席者である京都大学名誉教授の西川先生(昭和30年卒)より乾杯のご発声をお願いいただきました。



令和元年度 洛友会関西支部総会

2019/05/11 17:47

懇親会中は終始和やかな歓談の場となり、楽しい一時を過ごすことができました。終盤には、西台様(昭和32年卒)のご指導のもと、役員会社の若手による先導で「洛友会の歌」を全員で斉唱し、最後に講演会講師の藤江様とご同期である京都大学名誉教授の松波先生(昭和37年卒)より締めのご挨拶をいただいで散会となりました。

前堀 健太(平4年卒) 記

第111回関西支部 ゴルフ競技会報告

(プレー状況)

第111回関西支部ゴルフ競技会が令和元年5月18日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は天候にも恵まれ、アウトは西村氏(昭和38年卒)、インは大澤氏(昭和44年卒)の始球式でプレーを開始し、合計16名(うちシニア6名)が競技に汗を流されました。

結果は以下のとおりです。

(シニアの部) (敬称略)

- 優勝 北野徹 (昭和44年卒)
2位 松尾茂 (昭和38年卒)
3位 西村登努志(昭和38年卒)
(一般の部)
優勝 藤岡直人 (平成3年卒)

2位 吉田豊彦 (昭和56年卒)  
3位 美濃由明 (昭和56年卒)

〈懇親会〉

プレー終了後、藤岡氏(平成3年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。

懇親会は西村氏(昭和38年卒)の乾杯のご挨拶からはじまり、表彰式では、優勝者に景品および優勝カップが手渡されたあと、北野氏(昭和44年卒)、藤岡氏(平成3年卒)より優勝報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

〈お知らせ〉

洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催



してまいります。今回は令和元年10月19日(土)を予定しております。若い方も含めて、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

〈連絡先〉

西田 篤史 (昭和63年卒)  
星野 大樹 (平成24年卒)  
連絡先 050710410973  
(星野)  
hoshinodaiiki@d3kepo.co.jp

北陸支部総会報告

令和元年5月25日(土)富山市の「富山第一ホテル」において、令和元年度北陸支部総会を開催しました。本部ならびに教室を代表して、白石誠司先生をお迎えし、北陸支部からは、18名が出席しました。

支部総会前には、例年同様、講演会を開催いたしました。今回は白石先生に「スピン／スピン流／スピントロニクス」と題して、お話し頂きました。電子のスピン性質を利用したスピン流素子により、これまでの半導体素子と比較して大幅な省エネ効果が見込める等の紹介がありました。質疑では、スピン流素子製作成功の要因やスピンの今後の展望について活発な議論がなされました。

支部総会では、葛原支部長より、

北陸支部総会は一年を過ごす上で大切なマイルストーンとなるイベントのひとつ。年に一度ではあるが、北陸支部会員の皆さんとの情報交換や近況披露の場として楽しくご参加頂きたい、と挨拶がなされました。続いて白石先生より、電気系教室の近況として、吉田・桂キャンパスの様子、教員の方々の異動状況などについてご紹介いただきました。最後に、支部幹事から支部近況報告、会計報告に関する議案を説明し、満場一致で承認されました。

総会終了後、記念写真を撮影し、その後、場所を変えて懇親会を開催しました。懇親会は、冒頭、葛原支部長のご挨拶、中島顧問(昭和40年卒)の音頭による乾杯で幕を開け、先生方や先輩・後輩と酒を



酌み交わしての歓談、参加者の自己紹介と近況報告など、楽しいひと時を過ごしました。懇親会中には、大相撲夏場所で地元富山市出身の朝乃山関優勝の報が流れ、大いに盛り上がりました。最後に琵琶湖周航の歌を全員で合唱し、金森評議員(昭和40年卒)のご発声のもと、万歳で散会となりました。

訂正

洛友会会報第264号P.3教室だより「電気系修士学位授与式」におきまして、エネルギー理工学研究所に「的池 遼太」様のお名前が抜けておりました。申し訳ございません。エネルギー理工学研究所修了生は6名となります。訂正してお詫び申し上げます。

お詫び

このたび発行しました洛友会会員名簿令和元年版の3、4ページ「卒業年別会員数調べ」のうち、各年度の居所判明者、居所不明者、物故者の人数の一部で数字の「0」が欠損するという誤植があることが判明いたしました。事前のチェックが不十分でご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。訂正した当該ページをホーム

ページに置かせて頂きました。印刷版の送付をご希望の方は、たいへんお手数ですが事務局までご一報下さい。

訃報

昭14	藤森	清信	8	12	12
昭23	畑	捨三	30	6	6
昭26	小西	良弘	31	4	14
昭30	田場	實	31	5	17
昭31	黒木	正明	28	12	16
昭34	古代	章	30	6	10
昭34	山口	文雄	31	4	9
昭35	仁田	周一	30	5	30
昭38	中嶋	康夫	30	11	22
昭40	片山	進	30	5	21
昭44	佐尾	重久	31	2	4
昭45	田村	和豊	30	11	13
昭46	藤田	英夫	31	3	20
昭49	松尾	吉高	30	10	19
昭52	竹田	稔	31	2	27
平26	山口	祐樹	30	11	30

以上の方がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

